

地域 ニュース 大阪

近大・森本教授の

痛み学 入門講座

8



もりもと・まさひろ 平成元年、大阪医科大学大学院(麻酔科学専攻)修了。同大講師を経て、8年に近畿大学医学部麻酔科講師。22年から現職。医学博士。日本ペインクリニック学会理事。

頭痛を抱えていても、薬局で買った薬だけでごまかしながら生活する人は少なくない。健康をテーマにした雑誌やテレビ番組が頭痛を頻繁に特集して取り上げている、にも関わらずである。しかし、このごまかしには大きな危険が潜んでいる。頭痛薬の使用過多によって発症する「薬物乱用頭痛」の存在だ。そうならないためにも、安易に頭痛薬に頼るのではなく、自分を悩ませている頭痛がどのタイプのものかをよく理解したうえで、適切な治療を選択すべきなのである。

頭痛のタイプを見極めるには、その痛みの性質、さらには場所、時間経過、痛みが起る

頭痛の分類



イラスト 松本好永

あなたの悩みはどのタイプの？

ときの状況、痛みに伴う症状などを分析することが糸口となる。性質別では、頭を締めつけら

れるような痛みならば「緊張型頭痛」、ズキズキと一定の間隔で起る拍動性の痛みは「片頭痛」、眼球をえぐられるような

緊張型頭痛、片頭痛などがこれに含まれるが、いずれも脳自体の障害に起因するものではない。生命に危険を及ぼすことはほとんどないが、強い頭痛が繰り返して起るために日常生活に支障をきたすようになる。一方で、二次性頭痛は、脳自体の障害などによって生じる。頭痛はその症状の一つであり、

痛みは自律神経が関与する「群発頭痛」、頭を殴られたようなガンとした痛みが突然起こった場合には「くも膜下出血」などの脳の血管障害といった具合に、である。

意識障害、麻痺、発熱などを伴う。これには、くも膜下出血以外に「慢性硬膜下血腫」や「脳梗塞」などが含まれ、この場合には警報の役目を果たしている。



髄膜刺激症候(ずいまくしげきしょうこう)

髄膜炎、脳炎、くも膜下出血などにより髄液に異常が生じた場合にみられる。頭痛に

加えて羞明(異常なまぶしさを感じる)、嘔吐など生じ、項部硬直(仰向けの姿勢で、頭を持ち上げると後頸部の筋肉が硬くなっている)、ケルニツヒ徴候(股関節を屈曲させると膝関節が屈曲する)、プルジンスキー徴候(頭を持ち上げると、股関節、膝関節が屈曲する)をみる。

国際頭痛学会が示した分類では、頭痛を一次性頭痛(従来の機能的頭痛)と二次性頭痛(症候性頭痛)に大きく分けている。一次性頭痛とは、頭痛以外には他の症状を伴わない(めまいや吐き

①50歳以上で突然発症②従来と異なる性状で、頭痛の起り方のパターンが変化③進行性④神経症状、発熱、髄膜刺激症候などがある場合には二次性頭痛が疑われるので、即座に医療機関を受診すべきだと考える。(近畿大学医学部麻酔科教授 森本昌宏)

第1、3土曜日に掲載

します。